

# 中国産輸出向け野菜に関する ケーススタディー

2013年9月19日

日本貿易振興機構アジア経済研究所  
新領域研究センター研究員 山田 七絵

# 中国産農産物の輸出入動向

## ◆ 急速な発展

- 1980～2010年の30年間で、農産物輸出額は13倍以上に増加。輸出総額に占める農産物の割合は同期間に26.7%から3.3%へ低下。

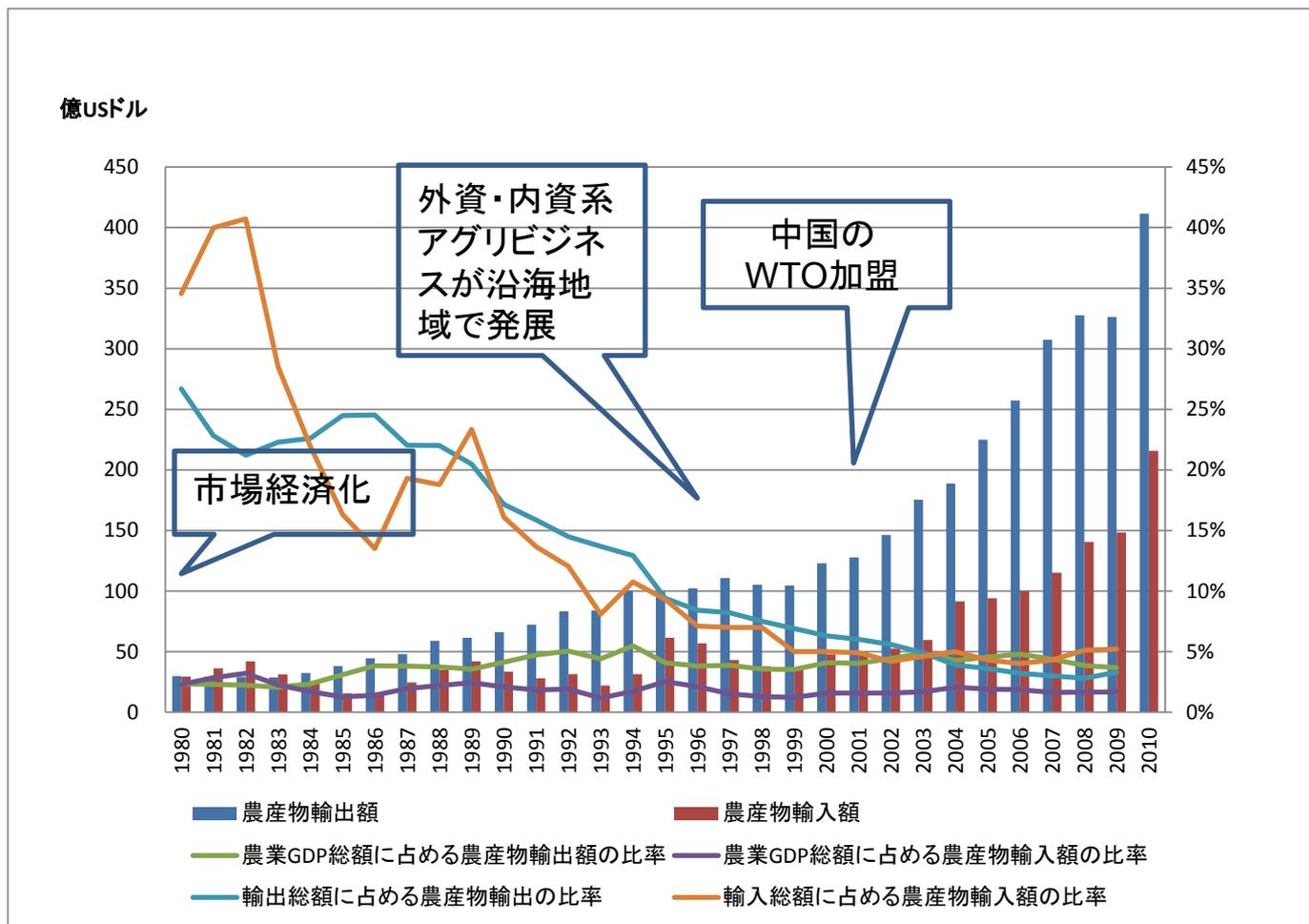
## ◆ 生鮮・冷凍野菜の輸出動向

- 輸出総額に占めるシェアは、1992～2010年の間に19.3%から33.0%へ増加。

## ◆ 中国産野菜の輸出相手国トップ3（2011年、括弧内は輸出総額に占めるシェア）

- 生鮮野菜：EU-27(37.3%)、ASEAN(18.4%)、日本(13.6%)
- 冷凍野菜：日本(44.9%)、EU-27(16.4%)、韓国(13.1%)

# 中国産農産物の輸出入動向



出所: 中国国家统计局編[各年版]『中国統計年鑑』、中国農業部編[各年版]『中国農業発展報告』。

# 中国産農産物・食品をめぐる 国内外で発生した主要な安全問題

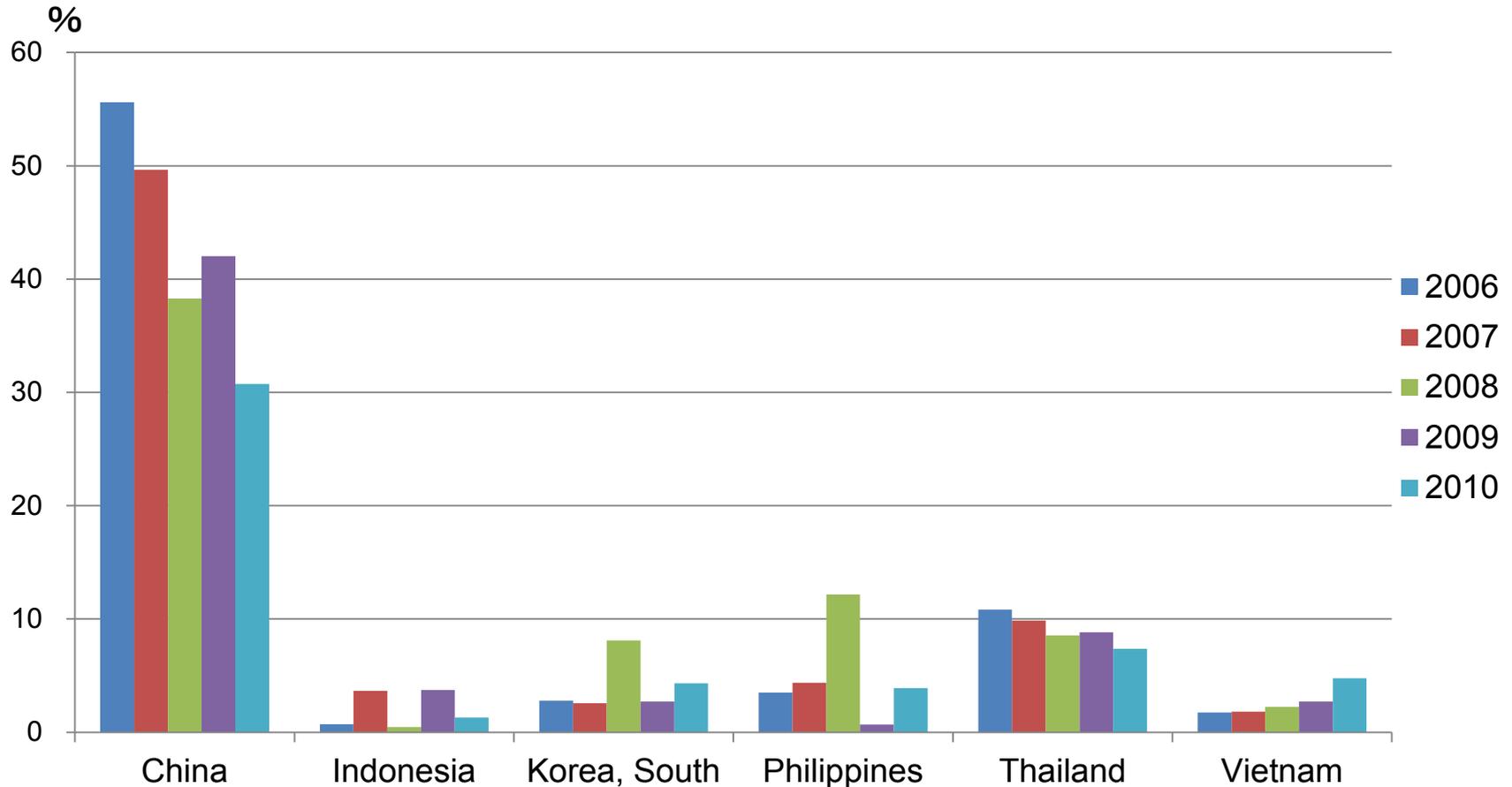
## ◆ 国際市場における問題

- 日本において中国産冷凍ホウレンソウから基準値を超える残留農薬クロロフィリフォスが検出される(2002年)。
- 韓国と日本において中国産ウナギから発がん性物質マラカイトグリーンが検出される(2008年)。
- 牛乳および粉ミルクからメラミンが検出される(2008年)。

## ◆ 国内市場における問題

- 豚肉から基準値を超えるクレンブデロール(赤身増強剤)が検出される(1990年代後半～)
- 薬用カプセルから基準値を超えるクロムを検出(2012年)。
- 違法に採取された使用済み食用油が市場に流通(2010年)

# 日本における輸入野菜・果物製品の違反件数に占めるアジア主要輸出国のシェア比較(2006-2010年)



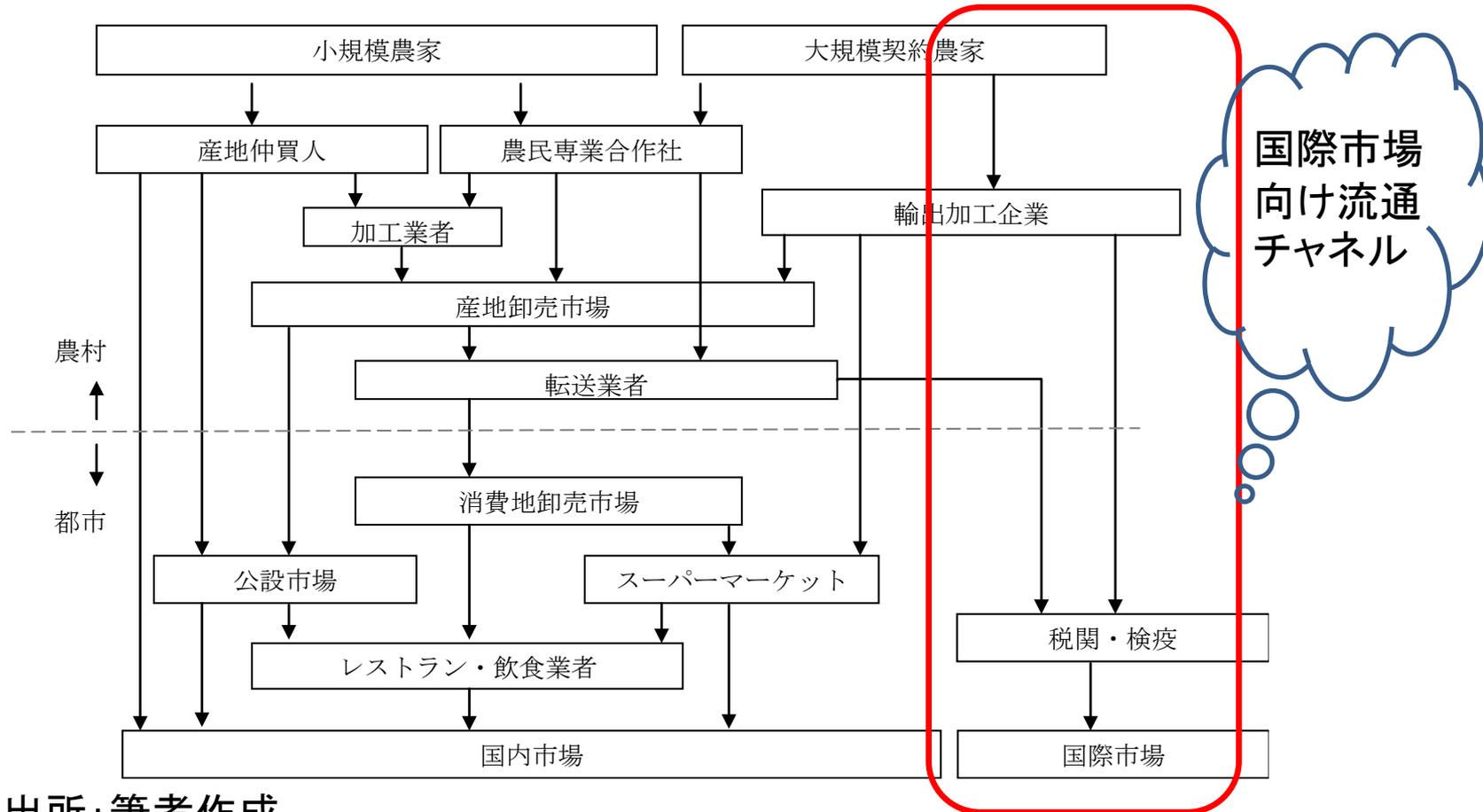
注:ブルネイ、カンボジア、香港、ラオス、マレーシア、シンガポールを除く。

出所:日本厚生労働省データに基づくUNIDO提供資料。

# 中国政府による対応

- ◆ 輸出向け農産物生産圃場および輸出加工企業の登録制度
- ◆ 生産プロセスにおける検査体制の強化
- ◆ 企業に対する政策的な支援を通じたアグリビジネスと農業インテグレーションの推進

# 中国産野菜の国内・国際市場向け流通システムの概要



出所: 筆者作成。

# 輸出向け野菜の検査体制

- ◆ 輸出加工企業の契約農場と直営農場
  - 政府の規制によるコントロール: 企業登録制度、トレーサビリティ体制の義務化
  - 企業による農薬、肥料投入のコントロール
  - 企業による原料野菜の収穫前の自主検査
- ◆ 加工段階
  - 企業による加工前、最終製品の自主検査
  - HACCAP、ISOによる品質管理
- ◆ 税関、検疫段階
  - 中国検査検疫局(CIQ)と企業による出荷前の検査

# 政策インプリケーション

- ◆ 大規模農家による契約農業の普及・推進に対する支援
  - 農産物輸出加工企業の発展支援
  - 公正な農地取引市場の発展
  - 大規模農家に対する融資、技術面でのサポート
- ◆ 持続的な食品産業の発展のために、国内の農産物流通システムの改善が不可欠
- ◆ 危険性のある農薬などの生産投入財の流通に対する厳格なコントロール
- ◆ 他の開発途上国の食品サプライチェーン構築への貢献

# ご清聴ありがとうございました

より詳しくは、IDE Discussion Papersシリーズをご覧ください。

Nanae Yamada and Shuyan Sui “Response of Local Producers to Agro-food Port Rejection: The Case of Chinese Vegetable Exports”  
IDE Discussion Papers series No.390, February 2013.

<http://www.ide.go.jp/English/Publish/Download/Dp/390.html>

Romio Mori, Kaoru Nabeshima and Nanae Yamada "Food Safety Control System of Chinese Eel Export and its Challenges“, IDE Discussion Paper No. 418, May 2013.

<http://www.ide.go.jp/English/Publish/Download/Dp/418.html>